

【小倉記念】

ディクタス、グレイソヴリンの血が 20 年近く前から相性の良いレース。

戦歴は長距離指向。間隔を開けていた馬が有利。
今年の馬場でも同様のタイプが走りやすいと想定。

本命はヒュミドール。
父がディクタス持ち。母父グレイソヴリン系。
今回のメンバーのなかでは長距離指向の馬。

相手もグレイソヴリン系トニービン持ちで母父欧州型のヴェロックス。

【関屋記念】

昨年の勝ち馬サトノアーサー、2018 年の 1、2 着プリモシーン、ワントゥワンは
いずれもディープ×スプリント指向強い繁殖の配合。かつ大型馬。

本命はクリスティ。
クリスティもディープ系×母父がスプリント戦の G1 馬を複数出したクロフネ。
特に牝馬を走らせる血統。大型の牝馬。

相手もソングライン。父が同じくキズナ。
母系も短距離指向のスピード持続力に優れた配合。

カラテも本命馬と同じ母父系で大型馬。

グランデマーレはスプリント指向の大型馬。
最内枠は、やや気になりますが適性はぴったり。